

春 秋 彩

■春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の詩書「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

自ら拓きたい大学改革の途

熊本県立大学長

菅野道廣



ここ数年の春秋彩での学長挨拶文は大学改革に尽きます。大学をとりまく環境は厳しく、学外の識者からなる「熊本県立大学あり方検討会議」は昨年10月、大学の進むべき道筋について報告書をまとめ、法人化の必然性を説いています。設置者である県当局はこの提言をもとに大学改革に取り組むことになりました。いよいよ鉄斧は振り下ろされ、正念場を迎えます。

本学では大学はかくあるべきと、この4年間余り全学の英知を集め、自己主張できる体制の構築を目指して「基本構想・基本計画」を策定しました。

県立大学のあるべき姿を真摯に模索し、数多くの情報の中から珠玉を選び取ること努めてきました。そして、自らを律し、大学の知的財産を地域に還元できる体制作りが不可欠であり、そのため「県立大学運営協議会」を催して学外からの要望を汲み取るなど、いろんな手段を講じてきています。その過程で、毎月開いている学生諸君との懇談の場は、実に有用な情報源です。授業評価では読みとれない主役たちの声に襟を正す思いがします。学生が参加しない改革など机上の独りよがりには過ぎません。

自己主張ができる学生を求めて、総合管理学部ではAO入試（自己推薦型入試）を実施し、確実な一歩を踏み出しました。環境共生学部では学年進行に伴う17年度の大学院博士課程設置を目指し、文学部でも学部のあり方が根本的に検討されています。県立大学は変わります。学生だけでなく県民や保護者の皆さん方の期待に十分に答えられるように信じています。ともかく、社会に分かりやすい大学を目指します。大切なのは普通の語で非凡なことを言うことである（Arthur Schopenhauer）。

Contents

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 学長挨拶 | 8 学生の声・サークル便り |
| 2 教育充実のための取組 | 9 キャンパス・ニュース |
| 4 学部紹介 | 10 後援会便り |
| 5 海外研修報告 | 12 行事予定、お知らせ |
| 6 就職支援 | |

SYUNJUSAI
熊本県立大学・学報

2004.4

VOL.20

ための取組

GPA制度

本学では、大学間の競争が激化する中、個性が輝く大学として存続していくため、「教育の重視」と「地域への貢献」を改革の基本方向とする「熊本県立大学の改革方策」を平成14年3月に策定し、54の改革方策を推進しています。このコーナーでは、教育の充実のための取組状況を報告しています。

今回は、平成16年度から実施するGPA制度、英語教育カリキュラム改革、インターンシップの単位化などを紹介します。

また、教務の事務システム変更に伴い、学生各自が履修登録を学内の端末のパソコンから行うこととし（4年次は履修届を提出の方法）、履修登録が容易となり、また、学生がいつでも自分の成績を学内の端末で確認することができるなど、履修に関する利便性が向上します。

熊本県立大学では、平成16年度以降の入学生にGPA制度が適用されます。

GPA制度は、アメリカの大学で広く採用されている成績評価システムです。GPAは、Grade Point Averageの略語で、授業科目ごとの成績評価に対し、定められたポイントを付与し、その単位当たりの平均を算出したものです。本学では、図1の式により算出されたものを使用します。

例えば、ある学期に表1の科目を修得した場合、科目毎GPAは表の数値となり、学期毎GPAは、2.5となります。

GPAの優秀者は大学から表彰されます。GPAが4.0以上でその上位者には学長賞が、3.5以上でその上位者には、優秀賞が授与されます。

また、GPAが2.0未満の学生には、教官から個人指導が行われます。

GPA制度の導入に合わせ、評価の区分が変わります。従来、優・良・可・不可で区分していた評価に「秀」が加わります。秀は100〜90点、優は89〜80点、良は79〜70点、可は69〜60点の科目に付されます。59点以下の科目には不可が付されます。

GPA制度の導入により、学生の皆さんが、学習効果を自分自身で把握したり、或いは科目の履修に当たって、ただ卒業するのに必要な単位を修得するのではなく、皆さんが主体的に、かつ、充実した学習効果をおこなうことを期待しています。

〈図1〉 科目毎GPA = $(\text{得点} - 50) \div 10$
 [ただし、得点が50以下のときは0とする。]

学期毎GPA = $\frac{[(\text{履修登録科目の単位数}) \times (\text{科目毎GPA})] \text{の総和}}{(\text{履修登録科目の単位数}) \text{の総和}}$

累積GPA = $\frac{[(\text{入学後の履修登録科目の単位数}) \times (\text{科目毎GPA})] \text{の総和}}{(\text{入学後の履修登録科目の単位数}) \text{の総和}}$

〈表1〉

科目名	単位数	点数	評価	科目毎GPA
英語Ⅰ	1	100	秀	5.0
英語Ⅲ	1	88	優	3.8
健康とスポーツ科学	2	96	秀	4.6
生涯スポーツ実習Ⅰ	1	87	優	3.7
人間と宗教	2	0	不可	0
環境と生きる	2	85	優	3.5
教養演習（プレゼминаール）	1	93	秀	4.3
アドミニストレーション入門	2	62	可	1.2
行政の基礎	2	53	不可	0.3
法の基礎	2	70	良	2.0

注：表にある科目名は実在のものですが、個々の点数は、説明のために作成的に点数を付けたもので、実際に付された点数ではありません。

学期毎GPA = $\frac{1 \times 5.0 + 1 \times 3.8 + 2 \times 4.6 + 1 \times 3.7 + 2 \times 0 + 2 \times 3.5 + 1 \times 4.3 + 2 \times 1.2 + 2 \times 0.3 + 2 \times 2.0}{1 + 1 + 2 + 1 + 2 + 2 + 1 + 2 + 2 + 2}$
 = 2.5

教育充実の

英語教育カリキュラム改革

本学では全学の英語教育をより充実させるために平成16年度からカリキュラムの変更を行います。まず学制的にCALEL（コンピュータ支援語学学習）システムの導入を予定しています。学内のイントラネット環境を活用して英語を学習するネットワーク型マルチメディア学習システムを用いて、授業内はもちろん授業外でも学内のCALEL教室等で好きなときにいつでもコンピュータを使って英語学習ができる環境を構築します。各目のレベルに合わせた教材をコンピュータ上でダウンロードし、一人一人が自分のペースで学習を進めていきます。授業への本格導入は17年度になる予定です。

また、文学部、環境共生学部は、今まで1～3年次ないしは1～2年次に渡って「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」の4技能を身につける授業を行ってきましたが、新カリキュラムでは1年次に週3回行うことにより、学年の早い段階で集中的に、効率的に4技能の土台を築き、高学年での専門授業に生かしていく語学基礎力を準備できるようにします。2年次以降には総合管理学部を含め全学共通に、1年次で身につけた能力を土台にしてさらに高度な能力を身につけたい、あるいは特定のスキルについて力をつけたい人を対象とした「選択科目／自由科目」が多数開講される予定です。就職のために英語力をつけたい人のためにも4年次まで継続的な英語学習が可能となります。



インターンシップの単位化

インターンシップとは、在学中に専攻分野や興味のある業種の民間企業・自治体等の職場で実際に仕事をを行い、学生の職業意識を高めることや将来の進路決定の参考とするために行うものです。本学では、平成15年度、2、3年生を中心に、夏季休業や春季休業の期間を利用して、約100名が参加しました。

平成16年度以降の入学生（2、3年次に実施予定）は、このインターンシップを科目として設定し、単位化（自由科目）します。

地域性を重視した授業「新熊本学」

現実的課題や地域課題に関心を持ち、対応できる能力を高めるため、学習テーマの素材を地域に求め、熊本の自然、歴史、文化、産業等地域性を重視した科目「新熊本学」を平成15年度から開講しています。

その中で、「地域社会と企業」、「地域社会と行政」、「地域社会と市民ネットワーク」の講義では、地域現場で活躍されている方々を客員講師として招き、企業行政（熊本県）、NPO等それぞれの立場から、実際の活動の状況、課題、地域社会との関わりのある方についてご講義いただきます。

平成16年度の「新熊本学」科目

【教養科目】

- ・新熊本学：熊本の文化と自然と社会
- ・新熊本学：ことばと表現の歴史
- ・新熊本学：熊本の生活と環境
- ・新熊本学：地域社会と企業

- ・新熊本学：地域社会と行政
 - ・新熊本学：地域社会と市民ネットワーク
- 【専門科目】
- ・地域文化研究Ⅱ（文学部）

ホームページ

「学長への提言広場」を開設しました。

学生の意見を参考としたよりよい大学づくりのため、「学生と学長の懇談会」を昨年度から毎月開催しています。それに加え、この度、学生の皆さんから随時、気軽にご提言をいただけるよう、本学ホームページに「学長への提言広場」を開設しました。学内の情報処理実習室の端末からであれば、いつでも電子メールでご提言を送付いただけます。いただいたメールについては、すべてに学長が目を通し、本学運営への反映について検討します。提言に対しての個別の回答はしませんが、どのような提言が寄せられているか、定期的にホームページや学内掲示板で紹介します。是非、教育について、学生生活支援について等、大学運営に関する積極的なご提言をお寄せください。





環境共生学部長
大和田 紘一

環境共生学部は新しい視野から人間活動と自然環境の積極的な調和をめざして、平成11年4月に全国に先駆けて作られた自然科学系の学部で、次に記すような構成で教育研究を行っています。

○生態・環境資源学専攻（定員20名）・・・地域の生態系を支配するさまざまな環境要因と、人間活動がそこに及ぼす影響を解析することによる、自然環境と人間活動との共生の基礎理論を学び研究する。

○居住環境学専攻（定員40名）・・・環境と共生していくために、環境への負担を軽減し、物資を正常に循環させ、人間の健康や福祉などの視点を重視した住居・建築・都市・地域へと連なる居住環境とそのシステムのあり方について学び研究する。

○食・健康環境学専攻（定員40名）・・・環境にやさしい食品の創製、地域の環境特性を考慮した食生活の設計や健康増進のあり方などについて学び研究する。

新学部を作り上げていく過程でのコンセプトは、環境、生態系、実学、福祉、健康、地域、循環型社会などのキーワードで表すことが出来ます。当時としては非常に斬新な環境共生学部という学部名を掲げ、自然環境との共生、さらに地域の福祉や文化の向上という理念をもった教育・研究を進めています。そのためカリキュ

ラムの中にはさまざまなフィールドワーク、環境アセスメント実習、基礎デザイン実習、栄養運動生理学実習など環境共生の基礎となる現場での実証的な作業や、その基礎となる各種の学生実験などが入っています。環境共生に関わる諸問題は非常に多様であり、これらの解決のためには従来の学問分野の枠組みを越えた総合的な問題把握と教育研究が求められています。環境共生学部ではこのようにこれまでは学際的といわれた分野をまとめて新しい環境共生学の確立に向かって実践教育を行っています。

平成15年3月には学部の一期生が希望に胸をふくらませながら、大学から巣立って行きました。4月には学年進行で大学院環境共生学研究科修士課程が発足して、初年度には27名（社会人5名と外国人留学生1名を含む）が、また平成16年度には22名が入学して新しい研究テーマに向かって挑戦をします。大学院では社会人も一般学生と同じように単位を取得できるように、昼夜開講をしています。平成17年度には大学院博士後期課程が学年進行で開設できるようにするため検討中です。



最近では食の安全・安心、有明海や八代海の環境問題、また公共の施設のバリアフリーなどの福祉の問題など環境に関わるさまざまな問題に世の中の関心が向けられています。本学部の多くの教員がこれらの問題に第一線で活躍中です。

森林体験実習に参加して

■環境共生学科 生態・環境資源学専攻 2年 山崎教之さん

実習での木の伐採はノコギリを使ったものだったので、とても大変でした。しかし、伐採し終わった後の景色は予想以上に変化があり、大変感動しました。また、実習では、山への不法投棄の状況についての話があり、実際に現場を見に行くこともでき、貴重な体験になりました。夜はファームビレッジに行き、温泉に入り、会食などを通して先輩や教授の方々との交流を深めることもできました。



■環境共生学科 生態・環境資源学専攻 3年 町田裕子さん

今回の間伐実習は私にとって二回目の現場でした。ノコギリの扱いも以前よりましになり、木を倒すという作業に没頭し、相変わらず体力のいる作業に疲れながらも満足感を感じていました。

日本の林業が廃れていると言われ始めて何年になるでしょうか。第一の原因は後継者不足です。では、何故不足するのか。私は、林業に触れる機会が少なくなっていることが一つの要因だと考えます。林業とは何なのか、どんな作業が行われているのか。それを若者世代に伝えるためにも、このような実習を受ける機会を増やしていただけたら、と感じました。

食・健康環境学専攻では、「食の安全安心フォーラム」を県及びくまもと食の安全安心県民会議との共催により開催しました。



(平成16年1月31日)

環境共生学部のトピックス



居住環境学専攻の平成15年度卒業論文・卒業設計発表会で、中村智絵さんの「タイヤリサイクル舗装材の吸水・蒸発特性に関する研究」が最優秀論文として、(社)熊本県建築業協会建築部会から表彰を受けました。

(平成16年2月16日)

海外研修を終えて

文学部 助教授

ロバート カークパトリック



留学先：

タイ・・・チュラロンコン大学（バンコク）

研修期間：2002年9月～12月（3ヶ月間）

ニュージーランド・・・ワイカト大学（ハミルトン）

研修期間：2002年12月～2003年9月（9ヶ月間）

で、より十分な理解力と高度な視点で、養うために基礎的なテキスト分析も行っていただきました。

多くの学者や専門家を取材しましたが、そのうちの一人、仏教の専門家として有名な Sujin Boriharnwanaket（77歳）は、古典の文献に典拠を求めるといふ伝統的スタイルを重んじており、それを高いレベルで一つの方法論として確立したことにより、広く世に評価されることとなりました。タイでは20以上のラジオ局で毎日レギュラー番組を抱える彼女ですが、私は何度も面会し、仏教徒の世界観についての彼女との議論を約20時間録音しました。彼女は英語が堪能であり、タイでは多くの著書を出版しています。

Taking Refuge in Buddhism (zolas, 2000) もその中の一冊です。

今回、基礎的な調査や、独自の方法を用いて授業を行う教師の方々と議論する機会を得ることが出来て大変勉強になりました。現地で学んできたことをこれからの授業に還元したいと思えます。

私の研究分野は異文化研究です。留学先での研究課題は、3つの主要な世界観—科学的物質主義、仏教、キリスト教の調査を通じて、それらが教育に与える影響を明らかにすることです。文献収集や聞き取り調査、専門家のアドバイスを通し、3つの世界観がそれぞれの文化と融合していることを知りました。現地調査では私の宗教に対する意見を相手に伝えるのがとても困難



Sujin Boriharnwanaket

イギリスにおける 食・農・環境

環境共生学部 助教授

松添直隆



留学先：イギリス・・・プリマス大学（プリマス）

留学期間：2003年1月～2004年1月（12ヶ月間）



国土の約76%が農業用地、食料自給率74%の国「イギリス」、この国の「食・農・環境」を学ぶためにプリマス大学に留学した（日本の農業用地13%、食料自給率40%）。プリマスはイギリスの南西部に位置する人口約25万人の古い港町である。この港からは1588年にスペインの無敵艦隊を撃退するためにドレ

イク船長が出航し、また1620年には巡礼始祖102人に乗せた「メイフラワー号」がアメリカ大陸を目指した。ここは比較的温暖な気候で郊外には農地が広がっていること、ダートムーア国立公園などの自然が残っている理由で留学の場所に決めた。大学ではDr. Andy Foggoと「植物の病害虫抵抗性物質」に関する研究を行ったが、大学の対応は非常に良く、充実した生活を送れた。一方、現地の幼稚園・小学校・中学校に通う娘や息子達を通して多くの人と出会い、様々な視点からイギリス社会を見ることができたと思う。食・農・環境を探るために、各地の生産現場に出かけた（北はネッシーが棲む？ネス湖、東はロンドンの先まで）。森林率10%のこの国（日本は67%）では広大な森林を見ることは少なく、その代わりに小麦・大麦、ジャガイモ、飼料用作物などの耕作地、羊や牛が早朝からのんびりと草を食べている放牧地が続いている。羊達（約4000万頭）が日本の森林の木々のようにも思え、食・農・環境の深い関係を再認識すると同時に、農業・食が環境に与える功罪の大きさを痛感した。大学での研究、家族6人の生活を支えてくれた多くの友人達に感謝し、1月末に帰国した。



プリマス近郊の放牧地（食・農・環境を感じる光景です）

就職までのタイムスケジュール

- 1年** 4月 **入学式後のオリエンテーション**
将来の進路を意識した、今後のキャンパスライフの過ごし方を説明します。
- 7月 **1年生向け就職ガイダンス**
自己発見プログラムなどを行い、職業観を育てていきます。
- 2年** 4月 **就職ガイダンス**
就職に対する意識を高めるために、就職講演会を実施します。
- 7月 **2年生向け就職ガイダンス**
自己発見、社会常識チェックなどを行い、就職に対する意識を高めていきます。
- 公務員ガイダンス**
公務員を目指す2年生へ、公務員の種類と勉強方法について説明します。
- 8月・3月 **インターンシップ**
民間企業や地方自治体で実際に仕事を体験し、将来の進路を考えるのに役立ちます。
- 3年** 4月 **就職ガイダンス**
オリエンテーション時に、就職講演会を実施し、就職とは何か、自分の進路を実現するためには何をすればよいか説明します。
- 学部(専攻)単位による就職ガイダンス(～3月まで随時実施)**
学科または専攻別に、OB・OGなどと呼んでの就職懇談会を実施します。
- 7月 **就職ガイダンス**
就職活動するためには夏休みは何をすればよいか、具体的に説明します。また、自分がどの職業に適しているのか「適職診断プログラム」を受けることができます。
- 公務員ガイダンス**
公務員を目指す3年生へ、公務員の種類と勉強方法について解説します。
- 8月 **インターンシップ**
民間企業や地方自治体で実際に仕事を体験し、将来の進路を考えるのに役立ちます。
- 10月 **就職ガイダンス**
残りの学生生活の過ごし方に力点を置き、就職活動の自覚と心構えや就職活動の進め方について説明します。
- 就職セミナー(準備編)**
就職活動を行うための準備として、①自己分析、②業種・業界研究、③筆記試験対策、④履歴書対策、⑤面接対策などについて説明します。
- 11月 **企業ガイダンス**
企業に就職した卒業生、企業や公務員に内定(合格)した4年生との就職懇談会を実施して、仕事の内容や受験対策を説明します。
- 12月 **公務員合格**
公務員講座受講生の2、3年生を対象に、学外で1泊2日の集中講義・面接対策等を行います。
- 2月 **就職セミナー(直前編：民間企業編、公務員編)**
就職活動の直前対策として、1週間集中して就職セミナーを実施します。就職セミナーの中では、①作文対策、②一般教養模試対策、③面接・マナー対策、④筆記試験対策(SPI模擬試験)、⑤時事問題対策、⑥就職内定者との懇談会、⑦卒業生との懇談会、⑧自己PR・志望動機対策、⑨公務員ガイダンス、⑩公務員試験説明会、⑪公務員合格発表会、公務員OB・OG発表会などを行います。また、県内で活躍している企業の人事担当者をして、ブース形式による学内企業説明会も実施します。さらに、福岡等で開催される合同企業説明会にも大学からバスを運行します。
- 4年** 4月 **就職ガイダンス 教員採用説明会**
熊本県教育委員会の担当者を招き、採用選考試験の概要を確認します。
- 企業説明会(セミナー)**
各企業の採用担当者を招き、企業・業界の実態や採用試験の概要について説明します。
- 7月 **就職ガイダンス**
未内定の4年生に今後の就職活動の進め方や求人状況について説明します。また、就職に関する個別指導を行います。
- 9月 **就職ガイダンス**
未内定の4年生に今後の就職活動の進め方や求人状況について説明します。

就職の支援や資格の取得のために次の講座・研修を実施しています。
興味のある方は積極的に参加してください。
また、後援会からも各種講座の開催や助成等、学生のために幅広い就職支援がなされています。

インターンシップ

企業や自治体の研修プログラムにもとづいて、一定の期間企業や自治体で研修をすることができます。毎年100人を超える学生が参加しています。

公務員試験対策講座

ビデオ教材や教員による直接指導によって、国家公務員や地方公務員試験合格へ向けて徹底指導します。公務員合格者は、ほとんどの人がこの講座を受講しています。

マスコミ講座

テレビ局・新聞社等から講師を招き、マスコミに就職を希望する学生を徹底指導します。

システム・アドミニストレータ講座

大学外からの講師も招き国家試験合格に向け、エンドユーザ部門の情報化リーダーを養成しています。

ファイナンシャル・プランナー養成講座(入門・AFPコース)

個人資産の適切な運用の提案といった総合的なコンサルティングを行う資格の取得に向けて実施しています。

TOEIC®・TOEFL®

国際ビジネスで必要とされる英語コミュニケーション能力や留学に必要な英語能力判定テストのための指導を行います。また、学内で団体試験を実施しています。

宅地建物取引主任者講座

不動産取引に関する専門的知識を持つ者として金融・不動産業界などの企業でも有力な資格の取得に向けて実施しています。

簿記検定講座(3級・2級コース)

企業の財務状況を把握し帳簿管理を行い、あらゆる企業で評価の高い資格の取得に向けて実施しています。

就職ガイダンス(民間・公務員)

業界セミナー、個別企業による説明会、卒業生との交流会など年間を通じて多彩なガイダンスを開催します。

就職セミナー

就職活動を行なうための準備として、テーマ別に現状に即した実践的・具体的なセミナーを開催します。

上記資格取得講座以外にも、行政書士講座や旅行業務取扱主任者講座なども実施しています。

就職センター

就職情報提供と、きめ細かな就職指導・親身な就職相談を行なっています。

学生の就職情報収集の場として利用できるのが、第一大会館内に設けられた就職センターです。県内外の企業からの求人票や就職情報誌、業種別に分類した約3,000社の企業ファイル、先輩の受験報告書、企業別卒業生名簿など、就職に関するいろいろな資料が揃っています。

ここでは就職に関する資料や書籍などの閲覧ができるほか、書籍やビデオテープの貸し出しを受けられます。

また、二人の専任の就職アドバイザーが常駐して、学生の就職相談や指導にあたっています。



就職活動の主役はもちろん「あなた自身」です。

超氷河期といわれる大卒の就職難の状況は、依然として改善の兆しが見られません。学生のみなさんには大変厳しい環境下にあります。

就職センターでは、経験豊かな就職アドバイザーが進路相談から企業情報の収集の仕方、自己PRおよび志望動機を中心とした履歴書の書き方、受験する企業に焦点を合わせた面接や入室のマナーに至るまで、親身になり徹底指導を行なっています。

就職センターをよく利用する学生ほど、内定も早いようです。早い時期から就職センターを積極的に活用してください。



就職アドバイザー
近藤 俊哉



就職アドバイザー
前田 勝

● 就職センター ●

相談時間：月曜日～金曜日 午前10時から午後5時まで（昼休みを除く）

※時間外でも電子メールで相談を受け付けています。E-mail:gakusei@pu-kumamoto.ac.jp

企業から見た県大生

(財)化学及血清療法研究所 総務部人事課 坂口一浩さんに、企業から見た本学学生の印象について、インタビューしました。



「水平感覚」と「垂直志向」

県大生の印象を一言で表現すると、「スマート」、そして「素直」です。充実した教育内容、恵まれた教育設備を活用して、ビジネススキルの基礎を身に付けた、バランス感覚のある学生が目につきます。対人面では、男女間でも構えずにフランクに接する「水平感覚」にあふれていると感じます。裏を返すと、異質な人間と渡り合うたくましさに欠けるという感じがします。学部構成が比較的均質であることも一つの理由でしょうし、先輩・後輩間のタテ社会にはあまり慣れていない、との印象を持ちます。

企業では、スキルの高さだけでなく、壁にぶつかっても突破できるたくましさや、したたかさが必要であり、常に仕事を革新できる思考能力を持った人材が求められています。学生時代はつきあう人も自由に選べる訳ですが、あえて自分と異なる価値観、異なる世代の人と接し、そこから何かを吸収する、という「垂直志向」の意識が大切ではないでしょうか。ゼミや研究室、部活、自治会活動、インターンシップなどの経験も、自分の人間性（強みや弱み）を知るための宝物のような時間だと思えます。

次元の高い「個性」というのは、異質の人たちと本気で関わり、組織の中で揉まれ、時に打ちのめされる経験の中から生まれてくるものだと思うのです。

肥後銀行 渡鹿支店 上野尚文さん（平成11年 総合管理学部卒）に、県大生の皆さんへのメッセージをいただきました。



「なんさま、元気に、一緒に頑張ろう」

私は、今、営業の仕事をしていますが、「銀行員」の仕事と一言で言っても、業務内容は数多くあり、様々な仕事を経験する機会があります。そのため、向上心や何にでも興味を持つ探求心が強く求められます。また、県内を中心に転勤も多く、「熊本」の中の各地域の土地柄を知った上で、仕事をしていく必要があります。

大学時代を振り返ってみると、総合管理学部で法律、行政、経済等について幅広く学んだこと、野球部での先輩後輩とのつきあいや、副キャプテンとして部員をまとめていくという経験が、現在仕事をする上で、多角的な視点から物事を見て、多様な考えの人と一緒に仕事をする、前向きに頑張るといふことに役立っていると思います。

後輩の皆さんにアドバイスするとすれば、「就職」することだけを目的とするのではなく、早い時期に、インターンシップ等の機会を通して、自分なりの職業観や働くイメージというものを持つておくことが大切だということです。また、学生のうちに資格を取ることもいいでしょうが、ネットワークを広げて自ら様々な情報を収集することや、社会事象を知り、そこから自分で課題を設定できる能力を身につけることの方がより重要だと思います。

そして、最後に一言。県大生は大人しい、特に、男子学生は大人しいという声を耳にします。「男子学生諸君、私達には他の大学と比べて先輩が多くはいないので、一緒に切磋琢磨しながら頑張っていきましょう。」

学生の声



韓国と日本 意識の違い

総合管理学部 総合管理学科3年

鍋島 有希さん

私は大学2年の頃から、英語が好きで語学ボランティアをしてきました。

活動の中で英語を母国語としない海外の人に会う機会も多く、そのような中で私は特に身近に感じられる韓国人と友達になりました。その付き合いを通して韓国語を学ぶだけでなく、文化の違いなどもわかるようになりました。それらがきっかけで、大学の韓国短期研修や昨年実施された学外の「日韓交流デー」行事に参加することになったのです。

「日韓交流デー」では、韓国の大学生とこれからの日韓の国際交流についてディベートを行いました。思った以上に韓国の学生は日本に興味を持っていてびっくりしました。植民地時代の傷よりも、それを踏まえてどう仲良くなるかを積極的に求めているのに対し、日本は謝罪しか頭にない、そういうことよりもっと韓国という国に興味を持ってほしいと訴えていました。韓国の学生の生きた声を聞いて本当によかったと思います。近くて遠い国と関わっていたのは日本だけだったのかもしれない。今年の春から韓国に一年留学するのですが、この経験を活かしていきたいと思います。



韓国 忠清南道 牙山市で、「日韓交流デー」に参加した韓国の学生と(前列中央が鍋島さん)

路上から見た熊本

環境共生学部 生態・環境資源学専攻3年

浦本 雄太さん

自分は今「クライマークライマー」という二人組のアコースティックデュオで活動しています。ギターと自作の唄達をひっさげて路上で唄い始めて4年になります。自分達で唄える場所を探しているんな所を廻ったり、定期的に路上で唄うなどの活動をしていく間に、山鹿灯籠、ひのくに祭、松橋などの各地の色々なお祭や、若者の日、アートプレックス、学園祭など本当に沢山のイベントで唄わせていただけるようになってきました。

そんな中で、それぞれのイベントや路上で沢山の出会いがあり、熊本には色々な人々がいることに気付くことが出来ました。そして、その人々の頑張っている姿を見ていると、一人一人がそれぞれの熱い思いを持っていることが伝わってきます。



「センタープラザX'masコンサート」のイベント(昨年12月、熊本交通センター地下)に出演

そんな数々の出会いを通して、ただ街角で大声を出していただけの自分達が、本当の意味で成長することができたように感じます。最近、世の中が暗い暗いとよく耳にします。しかし、唄う事を続けてきて気持ちよくなりましたが、しっかりと顔を上げて周りを見れば、この街には頑張ってる動き出している沢山の人々を目にする事が出来ます。そんな人達と出会うため、そして自分達の成長のため、クライマークライマーまだまだ大きな声で唄っていきます!!

● サークル便り ●

弓道部

環境共生学部 居住環境学専攻 4年
草野 真功さん

大学生は学業のほかにアルバイト、自動車学校などで忙しいのですが、弓道部は自分の時間を利用して練習できるサークルだと思います。弓道は、基本的に練習相手のない一人でも練習できます。試合形式の合同練習は週二回と少なめですが学内に弓道場があるので、昼休みや空き時間など自分の時間を利用して毎日練習に励んでいます。

成績も女子では毎年決勝リーグに進む常連校となり、男子の方も近年部員の増加で、徐々に結果を出しています。試合は年5回の遠征と3回の五大学連盟戦に加え、一般の大会も参加しています。また、試合以外にも春と夏の合宿、学園祭での出店、他大学との交流など、県立大学で一番活発なサークルだと思います。

中学生から80代のお年寄まで活幅広い年齢の人が弓道をしています。実際、私の知り合いに定年後に弓道を始められ五段



キャンパス・ニュース

第39回 白垂祭

本学の学園祭「白垂祭」が、平成15年11月8日から9日にかけて開催され、多くの学生や地域住民で賑わいました。今回のテーマは「虹」。毎年恒例の「ミス・ミスター白垂コンテスト」のほか、「江戸むらさき」によるお笑いライブ、ゼミの公開ディベートなど学生が趣向を凝らした企画が行われ、英語劇や演舞、教室での展示など、各サークルが日頃の活動成果を発表しました。



国際交流

韓国短期研修団派遣

姉妹校である韓国・忠清南道の祥明大学校に、短期研修団15名を、平成15年9月16日から9月25日までの10日間派遣しました。研修団は、ホームステイをしながら、百済文化探訪やソウル史跡見学など韓国文化を体験して、祥明大学との交流を深めました。

留学生との交流会

平成15年12月8日(月)午後6時から第2学生会館で、「外国人留学生との交流会」を開催しました。約50名(うち外国人留学生16名)の参加者たちが、国際倶楽部によるゲームなどを行いながら、お互いに親睦を深めました。

●ホストファミリーをしませんか?

外国からの学生を受け入れてくださるホストファミリーを募集しています。5月にアメリカから、6月に韓国からの短期研修を受入を予定しています。期間は10日間程度です。詳しくは学生課までお尋ねください。

「熊本県立大学地域交流センター」シンポジウムを開催

(助)熊本開発研究センターとの共催により、平成16年2月18日に、少子高齢化と人口減少による2030年の熊本を予測した基調報告、これからの地域づくりの方向性についてパネルディスカッションを本学で実施し、市町村行政職員や県職員を中心に160名が参加しました。



授業公開講座

本学では、県民の方々に對して、大学の正規の授業を公開しています。

受講生の募集は、年に2回(8月と2月)行います。平成16年度後期講座の募集は平成16年8月上旬〜下旬の予定です。

▼受講料(1講座につき、半年間) 5,000円

「熊本県立大学運営協議会」第2回会議を開催

本学では、学外の意見を大学運営に反映させることを目的に、平成14年度に「熊本県立大学運営協議会」を設置しました。平成16年1月26日に開催された第2回会議では、「地域貢献」のあり方について、委員の皆様からご意見をうかがいました。「他大学も地域貢献に力を入れており、県大独自の取組が必要である」、「まず、地域貢献の二一ズを把握すべきである」、「教員個人の取組にとどまらず、大学全体としての組織的な地域貢献を行うべきである」等の貴重なご意見をいただきました。

大学基準協会(※)の第三者評価を受検、大学基準に適合との認定

教育研究水準の向上や活性化に努め、その社会的責任を果たしていくため、大学には、自己点検・評価の実施と結果公表が義務づけられ、自己点検・評価の学外者による検証が努力義務とされています。平成16年度からは、文部科学省から認証を受けた評価機関による第三者評価が義務化されました。

本学では、平成14年度に実施した自己点検・評価を基に、

平成15年度、大学基準協会の相互評価を受検し、平成16年3月に協会の大学基準に適合しているとの相互評価結果通知を受けました。助言として指摘を受けた項目について、改善を行うとともに、今後、6年に1度の自己点検・評価及びその結果に基づく第三者評価を実施していくこととされています。

●認定マーク



*大学基準協会

昭和22年7月に創設された、国公私立の大学を会員校とする団体(財団法人)で、大学の教育研究の質の維持向上と改善を進める目的で「大学基準」等を定めるとともに、基準等に基づく評価活動等を実施している。

役職紹介

平成16年4月1日現在

学 長	菅野 道廣
文学部長	元吉 瑞枝
環境共生学部長	大和田紘一
総合管理学部長	中宮 光隆
附属図書館長	永尾 孝雄
学生部長	古賀 実
外国語教育センター所長	三木 悦三

後援会便り

後援会とは、

- 本学在学生の父母またはこれに準ずる者を会員として組織されています。
- 大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果をあげることを目的としています。

後援会について…

本学在学生の父母またはこれに準ずるものを会員として組織され、大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果をあげることを目的として組織された団体です。

その事業は、就職対策、サークル活動、施設整備、国際化推進、フィールドワーク助成等多岐にわたり、学生の授業以外の大学生活を強力にバックアップしています。

後援会の予算は…

毎年度約4千万円を超える予算を執行していますが、収入の約8割を会員の方々の会費で賄っています。より多くの保護者の方々に会員になっていただくことによって、より充実した事業が実施できるわけです。

入会・会費納入について…

新入生に関しては、本学合格通知の際及び入学の際に、後援会の説明及び入会・会費納入のお願いをしております。後援会の趣旨をご理解のうえ、是非ご協力いただきますようお願いいたします。

なお、2年次以上であっても、在学中であれば随時入会を受付けておりますので、お気軽にご相談ください。

会員の皆様へ…

例年、6月上旬の土曜日に、本学において後援会総会を開催し、前年度の事業報告・決算、当年度の予算・事業計画について会員である皆様に審議していただきます。

平成15年度は総会終了後、各学部毎に、学部の活動や就職をテーマとした教員と後援会会員による懇談会を実施し、盛んな意見交換が交わされました。

平成16年度の総会については、5月頃ご案内致します。会員の皆様の御出席をお待ちしています。

学生の皆様へ…

助成等のお知らせについては、随時掲示板（管理棟・講義棟・大講義棟）に掲示します。

後援会事務局は管理棟2階事務局内にあります。事業についてのお尋ね、コピーカードの購入等、お気軽にお越しください。



● 後援会事務局 熊本県立大学内 中島（内線237）・上杉（内線204） ●

後援会の主な事業

就職対策事業



■公務員講座・資格取得講座

《学生の声》公務員講座受講 総合管理学部 平成16年3月卒業 堀江 知加 さん（熊本県入庁）

2年次から講座が始まるので早い段階から目標を定める事が出来ました。公務員を目指す人たちと情報を共有できる事も魅力でした。

■講座受講・資格取得支援

《学生の声》マスコミ講座受講 総合管理学部 平成16年3月卒業 岩越 耕作 さん（㈱ミキモト入社）

就職活動へ向けて、何をしなければならないかが早い段階でわかりました。不得意だった作文・自己PRに自信がもてるようになりました。



低年次向け就職ガイダンス

意識啓発につながる講演・就職適性テストを無料で受けることができます。

3・4年次向け就職対策

大学で実施する学内セミナー、各種の就職支援事業の経費を支出しています。

など

学生生活動支援事業



■サークル助成

《学生の声》サークル助成金 サッカー部主将 居住環境学専攻 3年次 高屋 稔申 さん

沖縄・福岡遠征に行き、ユニフォーム・ボールを買うことが出来ました。個人の負担が少なくてすみました。

コピー機、ファックスの設置

学生が学業のために日常的に利用するコピー機・ファックス機のリース費用を支出しています。

貸出し用パソコンの配置

学生への貸し出し用としてノートパソコン24台をリースし、中央コンピュータ室に配備しています。

など

国際化推進事業

■海外留学助成

《学生の声》海外留学助成 英語英米文学科 平成16年3月卒業 村崎 彩 さん（昶入社）

留学が自分の人間性を見るいい機会になったので、就職活動の際に必要な自己分析も難くできました。企業に自分をアピールすることを恥ずかしがらずに、より積極的にできるようになりました。



英語圏留学対策講座

英語圏の国に留学する際に必要なTOEFL®対策を行います。

研修団受入

姉妹提携大学との交流事業に関する経費を支出しています。

など

教育研究推進事業

現地教育学習バス借上助成

各学部又は研究室で現地学習を行うバス借上げ費用を助成しています。

共同自主研究助成

学生と教員が共同して自主的に行う研究の経費の一部を助成しています。

など

月	日	内 容
4月	上旬	卒業年次健康診断
	上旬	4年次公務員模擬試験(~5月)
	上旬	4年次学内企業説明会(~5月)
	中旬	2~4年次授業料納付書送付
	下旬	1年次授業料納付書配布
	6日	入学式(於: 県立劇場)
	7日	新入生オリエンテーション(~8日)
	8日	授業公開講座受講手続き(社会人)(~9日)
	9日	在学生オリエンテーション
	12日	授業開始
5月	中旬	卒業年次以外健康診断
	下旬	モンタナ州立大学ピリングス校短期研修団受入(10日間程度)
6月	上旬	インターンシップ説明会
	中旬	後援会評議会及び総会
	中旬	第2回資格取得講座説明会
	下旬	3年次就職ガイダンス(~7月上旬)
	下旬	韓国祥明大学校短期研修団受入(~7月上旬、10日間程度)
19日	TOEIC®団体特別試験(第1回)	
7月	上旬	1・2年次就職ガイダンス
	上旬	3年次進路個人面談(~9月)
	中旬	公務員ガイダンス
	中旬	4年次就職ガイダンス
	26日	前期試験(~8月6日)
8月	上旬	オープンキャンパス
	上旬	モンタナ州立大学へ短期留学生派遣(1年間)
	上旬	モンタナ州立大学ピリングス校短期研修団派遣(3週間程度)
	中旬	インターンシップ派遣(~9月中旬、5日間)
	7日	夏季休業(~9月30日)
9日	授業公開講座(後期)受講者募集(~27日)	
9月	上旬	4年次就職ガイダンス
	上旬	大学院(環境共生学研究所)入学試験(一次募集)
	上旬	大学院(アドミニストレーション研究所)入学試験(秋季募集)
	中旬	韓国祥明大学校短期研修団派遣(10日間程度)
	中旬	自己推薦型入試(総合管理学部)
30日	授業料第2期分納期限	

* 期日は変更となる可能性がありますので、学内掲示板により確認するか、担当課までお問い合わせ下さい。

ご意見・感想募集

本誌についてのご意見・ご感想を下記にお寄せください。みなさまのお声を参考に、今後の学報編集を行っていきたくと考えておりますのでよろしくお願いたします。

〒862-8502 (住所記載不要)
 熊本県立大学地域交流センター「春秋彩」担当
 FAX: 096-384-6765
 E-mail: souki@pu-kumamoto.ac.jp

熊本県立大学

発行: 熊本県立大学
 〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号
 TEL. 096(383)2929(代) FAX. 096(384)6765
 http://www.pu-kumamoto.ac.jp/

15 総 熊県大

③ 008

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています

お知らせ

●外国語教育センターからのお知らせ

◎自由講座の受講者を募集します!

外国語教育センターでは、本学学生の外国語コミュニケーション力の向上を図るため、正規の講義以外に自由講座を開講しており、また、県民の方々へ外国語学習の機会を提供するため、社会人にも公開しています。

授業で習ったことをさらに深めたい方、外国事情にも興味のある方等、どなたでも受講することができます。

■平成16年度外国語教育センター自由講座 開講予定

		講 座 名	開講期間
1	英語 自由 講座	TOEIC®対策(基礎コース)	通年
2		TOEIC®対策(応用コース)	通年
3		英検2級対策	前期
4		英検準1級対策	後期
5	ドイツ語自由会話		通年
6	フランス語自由会話		通年
7	中国語自由会話		通年

□受講申込期間 前期: 4月12日(月)~4月23日(金) 予定

後期: 7月予定

□受講料 無料

前期及び通年講座の社会人の方の募集は既に終了しました。また、社会人の場合、授業公開講座実施要項に基づいた受講料をお支払いいただく必要があります。

◎TOEIC®を受験しよう!

TOEIC®(トイック Test of English for International Communication)は、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界基準のテストです。TOEIC®には、各団体が日程や場所を自由に設定して試験を行うことができる団体特別試験制度があり、外国語教育センターでは、この制度を利用して、年2回、学内でTOEIC® IP(団体特別試験)を実施しています。

このTOEIC® IP(団体特別試験)は、公開テストより安価に(公開テストの受験料は6,615円ですが、この団体特別試験は3,150円で受験することが出来ます)、そして場所も本学で受験することができますので、就職活動に活用したい人や、現在の英語力を測定したい人は、ぜひ受験してください。

■平成16年度外国語教育センターTOEIC® IP実施予定

	試験実施日	試験場所	受験申込期間	受験料
第1回	6月19日(土)	学内	5月10日(月)~5月31日(月)	3,150円
第2回	12月18日(土)	学内	11月10日(水)~11月30日(火)	3,150円

○問い合わせ先: 外国語教育センター 2階 LL準備室

注) いずれも期日等変更となることがあります。詳細は後日、掲示等によりお知らせします。

●附属図書館からのお知らせ

図書館では専門図書や文藝関係の図書を随時購入しております。購入希望の図書等があれば所定の用紙でお申込みください。本学のホームページから所蔵図書の検索もできます。閲覧・貸出を大いに御利用いただきますよう御案内いたします。

■新刊図書等の御案内(この他にも多数購入しております。)

専門図書

- ・食の世界にいま何が起きてるか
- ・バイオのための基礎微生物学
- ・三葉虫の謎:「進化の目撃者」の驚くべき生態
- ・自我が揺らぐとき:脳はいかにして自己を創り出すのか

その他、文藝図書や視聴覚資料(DVD・ビデオテープ)も購入しております。

■図書館利用時の注意事項

※入館する場合は学生証が必要です。お忘れのないよう常に携帯してください。

※館内には飲食物の持ち込みは禁止となっております。

※館内では携帯電話の電源はoffにしてください。

※貸出図書については返却期限を厳守してください。(カウンターに返却のこと。)